

Title	伝統工芸USBメモリ開発物語：「石川伝統工芸イノベーター養成ユニット」で出会った3人のオトコたち
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ2, 25
Issue Date	2009-06
Type	Others
Text version	publ isher
URL	http://hdl.handle.net/10119/8216
Rights	
Description	

今後の展望

「いしかわメモリ」は、現在東京などの大都市のみで販売されていますが、今後は全国各地に販路を拡大していきます。また絵柄の種類を増やすなど、商品バリエーションも充実させていきます。

伝統工芸と現代機器の融合という従来にない視点から生まれた「いしかわメモリ」ですが、3人は今後もこの発想を活かし、石川の伝統工芸を多くの人にアピールし生活の中で使ってもらうために、パソコンまわりのIT商品群の開発に取り組んでいくそうです。近日、漆を用いた「いしかわマウス」、九谷焼の「いしかわマウスパッド」がラインナップに加わるほか、山中漆器アロマ、九谷焼アロマなども計

画中。いしかわメモリシリーズには、ブランド力や知名度はありませんが、産地が協力することで、今後も顧客の感性をくすぐる伝統工芸新商品を生み出していきます。

JAISTの「石川伝統工芸イノベータ養成ユニット」は、文部科学省が所管する科学技術振興調整費の地域再生人材創出拠点形成プログラムのひとつで、「伝統工芸 MOT コース」「産地 MOT 実践塾」「商品開発実践プロジェクト」の3つのコースで、伝統工芸にイノベーションをもたらす人材を育成しています。今後の「石川伝統工芸イノベータ養成ユニット」にもぜひご注目ください。

石川伝統工芸イノベータ養成ユニット <http://www.jaist.ac.jp/dento/>

地域再生人材創出拠点の形成プログラムとは

石川伝統工芸イノベータ養成ユニット事業は文部科学省・科学技術振興調整費の地域再生人材創出拠点の形成プログラムにより運営されています。同プログラムは大学の個性・特色を活かし、地域産業の活性化や地域社会のニーズの解決に向け、地元で活躍し、地域の活性化に貢献し得る人材を育成することを目的として、平成18年度に創設されました。大学が地元の自治体と連携し、科学技術を活用して地域に貢献する人材を育成する「地域の知の拠点」を形成するシステムを構築することを支援する仕組みです。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ 2

発行 2009年6月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・地域・イノベーション研究センター
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 知識科学研究科棟Ⅱ7階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL・0761-51-1839 FAX・0761-51-1767 E-mail・dento-secr@jaist.ac.jp



本誌は、文部科学省科学技術振興調整費
地域再生人材創出拠点の形成プログラム
の助成を得て発行しております。

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 2

伝統工芸 USB メモリ 開発物語

「石川伝統工芸イノベータ養成ユニット」で
出会った3人のオトコたち



石川県の伝統工芸として広く知られている山中漆器と九谷焼。2008年、これらの伝統の技を装飾に用いたパソコンのUSBメモリ「いしかわメモリ」が誕生し、石川県内ではもちろん、全国でも話題となっています。

開発のきっかけはJAISTが開講する「石川伝統工芸イノベータ養成ユニット」。ここで出会った3人の男性が、伝統工芸品の新たな可能性を探るべく、USBメモリの開発に乗り出しました。本誌ではいしかわメモリの背景にある開発ストーリーを追います。

これが伝統工芸 USB メモリ「いしかわメモリ」です！

「いしかわメモリ」と名づけられた USB メモリは、山中漆器モデルと九谷焼モデルの 2 種類があります。雑誌や新聞、ニュースで取り上げられて話題になっているので、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。

山中漆器モデルは紫陽花、薔薇など 18 種類のデザインがあり、生地から塗りまですべて手作りの職人技にこだわっています。4G と 8G に対応し、販売価格は 21,000 円から。手鏡タイプの普及モデル（10,500 円）もあります。

九谷焼モデルは、九谷焼の伝統的な柄である「紺地桜」「吉田屋風葵」など 5 種類があり、1G・2G・4G・8GB に対応。販売価格は 10,500 円からとなっています。陶器の USB メモリはこれが第 1 号で、ずっしりとした質感が楽しめます。

いずれもひとつひとつ丁寧に手作業で作っており、大量生産できるものではありません。存在感があり、手に持つと温かみを感じられます。芸術性が高く、オプションで名前や会社名を入れることもできるので、ギフトや海外向けのおみやげにも最適です。



山中漆器モデル



九谷焼モデル

始まりは「石川伝統工芸イノベータ養成ユニット」

異業種というよりむしろ正反対の業種である「伝統工芸」と「PC 周辺機」がなぜ融合したのでしょうか。実は JAIST が開講している講座「石川伝統工芸イノベータ養成ユニット」事業がきっかけだったのです。「石川伝統工芸イノベータ養成ユニット」講座は伝統工芸の新たな可能性を探り、伝統工芸の世界に革新を巻き起こす人材（伝統工芸イノベータ）を育てるため、平成 19 年度より開講されています。伝統工芸産業に従事する作家や職人、問屋をはじめ、伝統工芸を支援する行政マンや伝統工芸ファンの一市民も参加しています。この講座の講義を通して 3 人の運命的な出会いがあ

りました。工作・電子機器設計製造の朝日電機製作所（白山市旭丘）の砂崎友宏さん、茶道具で有名な道場漆器店（加賀市山中温泉）の道場順一さん、九谷焼製造販売の青郊（能美市佐野町）の北野啓太さんの 3 人です。

「石川伝統工芸イノベータ養成ユニット」に参加した砂崎さんは、地元石川県の伝統工芸の危機的状況を知り、これを何とかしなければとの思いを持つようになりました。そして同じく講義を受けていた道場さんの「茶道具が高齢化市場になり売上げが低迷しているので、若手市場を含んだ異なる市場を開拓したい」との考え

に共感し、山中漆器の技術を利用した USB メモリの開発プロジェクトをスタートさせました。

伝統工芸 USB メモリは前例のない商品開発です。また USB メモリは重要なデータを保存し、持ち歩く電化製品であるということから、高い信頼性と実用性を備えなければならないという難しさがありました。また漆を一点ずつふいて磨き上げる本格的な山中漆器は、想像以上に時間とコストがかかるため、価格設定でも悩みがありました。しかし商品を出展したギフトショーで多くのバイヤーから「美しい!」と絶賛されたことで、砂崎さんと道場さんは商品の完成度に自信を持ったといいます。

USB メモリの開発は違う工芸分野でも可能なのではないかということで開発が始まったのが九谷焼 USB メモリの開発です。昭和 10 年開窯の青郊は、歴史画風を生かした伝統的な九谷焼を数多く手がけています。特に盛絵の具を用いた表現を得意とし、独特の深みと透明感を活かした日常食器を中心に制作しています。青郊の北野さんの思いは「九谷焼の最大の特徴である「色彩美」を食器やインテリア以外の分野に生かすことができれば」というところにありました。こだわった点は、

現代的なポップな柄にせずに、あくまでも九谷焼らしい伝統画風とするということです。特に苦労したのは、焼くと縮まったり割れたりするなど精度の問題をクリアすること、そして小さなボディに九谷焼の加飾をどう施すかという点だったといいます。試行錯誤を経て完成させた試作品 8 個をテスト販売したところ、即完売。全国から引き合いが相次いだため、2008 年 10 月から本格的に販売しています。



東京国際ギフト・ショーの展示コーナー

砂崎 友宏 さん



「伝統工芸は差別化された技術だ!」と 2009 年 2 月 21 日北陸 MOT セミナー 2009 で 1 年 5 ヶ月の振り返り発表をさせていただきました。差別化された技術を使う機会を頂き、私自身心から感謝しています。これからも石川県の伝統工芸を元気にするために、伝統工芸×IT 分野で頼もしいイノベータ達と価値創造をしたいと思います。

道場 順一 さん



山中漆器の良さを若者にも知ってもらいたいと思い、USB メモリを作ることになりました。伝統的な文様を選び、裏でも難しい研ぎ出し蒔絵を気をはる小さいボディに「雰囲気を出せ」「情緒を出せ」そして「技を全部出せ」と腕のたつ職人を鼓舞して創り上げました。私から見ても自信を持って世に出せる山中漆器の作品だと思います。

北野 啓太 さん



普段考えていることを見える形に整理して時間を区切っていく事は、出来て当たり前かもしれないけれど、できていない作業でした。MOT の講義で九谷焼 USB メモリを制作することで、計画的に実践するという事を学べたと思います。今はこの勢いに乗ってどんどん形にしていきたいと思っています。

TRADITIONAL Craft + USB